

I 推計値の概要

1 農業総産出額及び生産農業所得（全国推計）

(1) 平成26年の農業総産出額は8兆3,639億円で、前年に比べ1.2%減少した。

これは、肉用牛、豚等の各畜産部門で産出額が増加したものの、米の産出額が減少したことによる。

主要部門別に構成割合をみると、畜産計は2兆9,448億円で農業総産出額の35.2%を占めており、次いで、野菜が2兆2,421億円で同26.8%、米が1兆4,343億円で同17.1%を占めている。

表1 農業総産出額（平成26年）

区 分	産 出 額		対 前 年 増 減 率
	実 額	構 成 比	
	億円	%	%
農業総産出額	83,639	100.0	△ 1.2
うち 耕 種 計	53,632	64.1	△ 6.0
うち 米	14,343	17.1	△ 19.5
野 菜	22,421	26.8	△ 0.5
果 実	7,628	9.1	0.5
畜 産 計	29,448	35.2	8.7
うち 肉用牛	5,940	7.1	14.5
乳用牛	8,051	9.6	3.5
豚	6,331	7.6	10.2
鶏	8,530	10.2	8.8

注：乳用牛には生乳、鶏には鶏卵、ブロイラーを含む。

ア 耕種部門

耕種部門の産出額は5兆3,632億円（農業総産出額に占める構成比64.1%）で、前年に比べ6.0%減少した。

(ア) 米の産出額は1兆4,343億円（同17.1%）で、前年に比べ19.5%減少した。

これは、価格が低下したことによる。

(イ) 野菜の産出額は2兆2,421億円（同26.8%）で、前年に比べ0.5%減少した。

これは、トマト、だいこんの価格が低下したこと等による。

(ウ) 果実の産出額は7,628億円（同9.1%）で、前年に比べ0.5%増加した。

これは、りんごやももの生産量が増加したことや、ぶどうの価格が上昇したこと等による。

(エ) 花きの産出額は3,437億円（同4.1%）で、前年に比べ1.4%減少した。

これは、きくやカーネーションの生産量が減少したこと等による。

イ 畜産部門

畜産部門の産出額は2兆9,448億円（農業総産出額に占める構成比35.2%）で、前年に比べ8.7%増加した。

(ア) 肉用牛の産出額は5,940億円（同7.1%）で、前年に比べ14.5%増加した。

これは、価格が上昇したこと等による。

(イ) 乳用牛の産出額は8,051億円（同9.6%）で、前年に比べ3.5%増加した。

これは、生乳の価格が上昇したこと等による。

(ウ) 豚の産出額は6,331億円（同7.6%）で、前年に比べ10.2%増加した。

これは、価格が上昇したこと等による。

(エ) 鶏の産出額は8,530億円（同10.2%）で、前年に比べ8.8%増加した。

これは、鶏卵及びブロイラーの価格が上昇したことによる。

表2 農業総産出額

区分	平成25年		26		対前年 増減率
	実額	構成比	実額	構成比	
	億円	%	億円	%	%
農業総産出額	84,668	100.0	83,639	100.0	△ 1.2
うち 耕種計	57,031	67.4	53,632	64.1	△ 6.0
うち 米	17,807	21.0	14,343	17.1	△ 19.5
麦類	410	0.5	384	0.5	△ 6.3
豆類	641	0.8	749	0.9	16.8
いも類	1,985	2.3	2,075	2.5	4.5
野菜	22,533	26.6	22,421	26.8	△ 0.5
果実	7,588	9.0	7,628	9.1	0.5
花き	3,485	4.1	3,437	4.1	△ 1.4
工芸農作物	1,849	2.2	1,889	2.3	2.2
畜産計	27,092	32.0	29,448	35.2	8.7
うち 肉用牛	5,189	6.1	5,940	7.1	14.5
乳用牛	7,780	9.2	8,051	9.6	3.5
豚	5,746	6.8	6,331	7.6	10.2
鶏	7,842	9.3	8,530	10.2	8.8

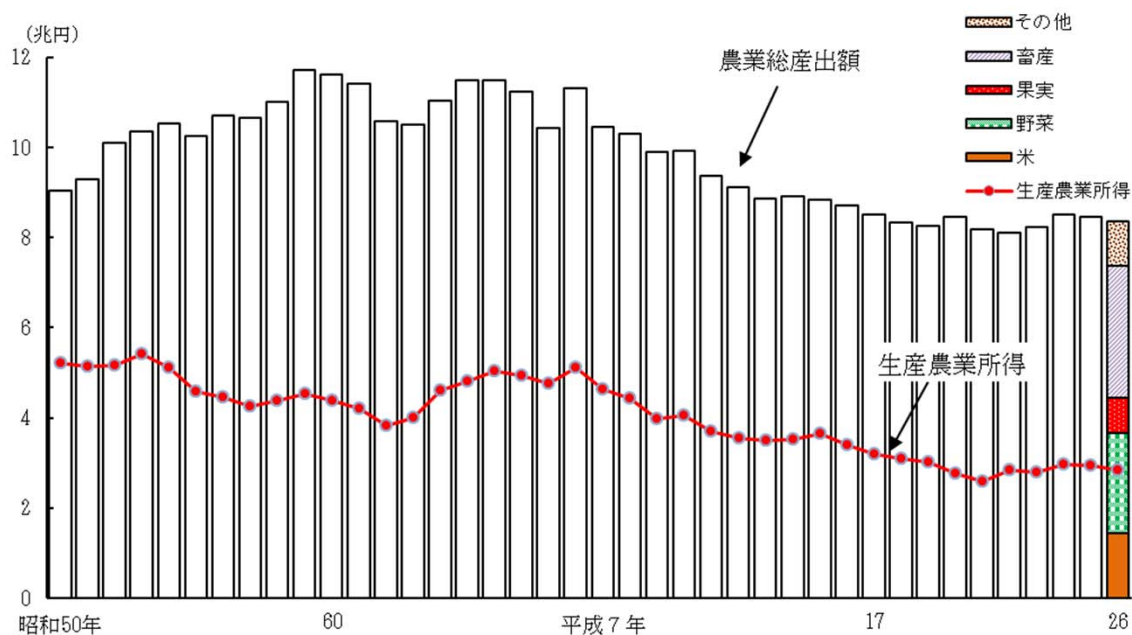
注：乳用牛には生乳、鶏には鶏卵、ブロイラーを含む。

(2) 生産農業所得は2兆8,319億円で、前年に比べ3.7%減少した。

表3 生産農業所得（全国）

年次	生産農業所得	
	実額	対前年増減率
	億円	%
平成20年	27,604	△ 8.6
21	25,946	△ 6.0
22	28,395	9.4
23	27,800	△ 2.1
24	29,541	6.3
25	29,412	△ 0.4
26	28,319	△ 3.7

図1 農業総産出額及び生産農業所得の推移



【参 考】

労働農業所得の試算

1 試算の目的

自営農業労働から得られる所得をマクロベースでみるため、生産農業所得から雇用賃金相当額、支払利子・地代相当額、経常補助金等を控除した労働農業所得（家族）及び労働農業所得（家族）から経営主（法人経営の構成員等を含む。）以外の家族の賃金相当額を控除し、経営主に帰属する部分である労働農業所得（経営主）を試算した。

2 試算方法

$$(1) \text{ 労働農業所得（家族）} = \text{生産農業所得} - (\text{経常補助金等} + \text{雇用賃金相当額} + \text{支払利子・地代相当額})$$

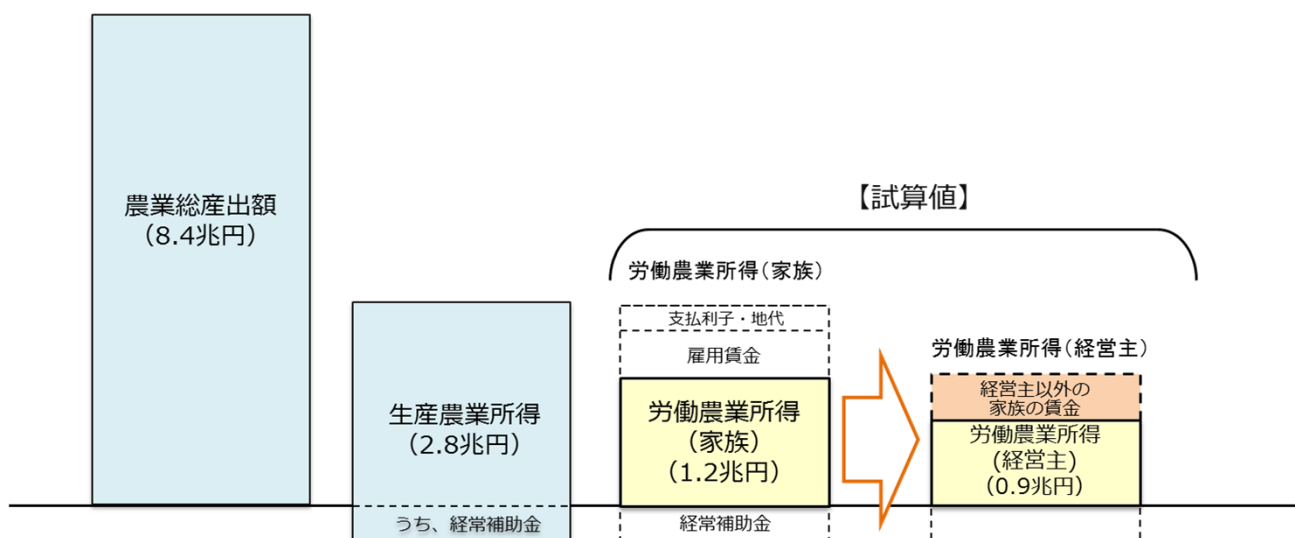
※ 雇用賃金相当額及び支払利子・支払地代相当額は、農業経営統計調査結果から得られた1経営体当たりの雇用賃金、支払利子・地代に経営体数を乗じて試算したものである。

$$(2) \text{ 労働農業所得（経営主）} = \text{労働農業所得（家族）} - \text{経営主以外の家族の賃金相当額}$$

※ 経営主以外の家族の賃金相当額は、労働農業所得（家族）から農業経営統計調査結果から試算した1経営体当たりの自己資本利子・自作地地代に経営体数を乗じた額を控除したうえで、経営主と経営主以外の家族の農業労働時間割合で^{あん}按分したものである。

3 試算結果

平成26年の労働農業所得（家族）は1.2兆円、労働農業所得（経営主）は0.9兆円となった。



2 農業産出額及び生産農業所得（都道府県別推計）

- (1) 都道府県別の農業産出額は、北海道が1兆1,110億円で最も多く、次いで茨城県が4,292億円、鹿児島県が4,263億円、千葉県が4,151億円、宮崎県が3,326億円の順となっている。

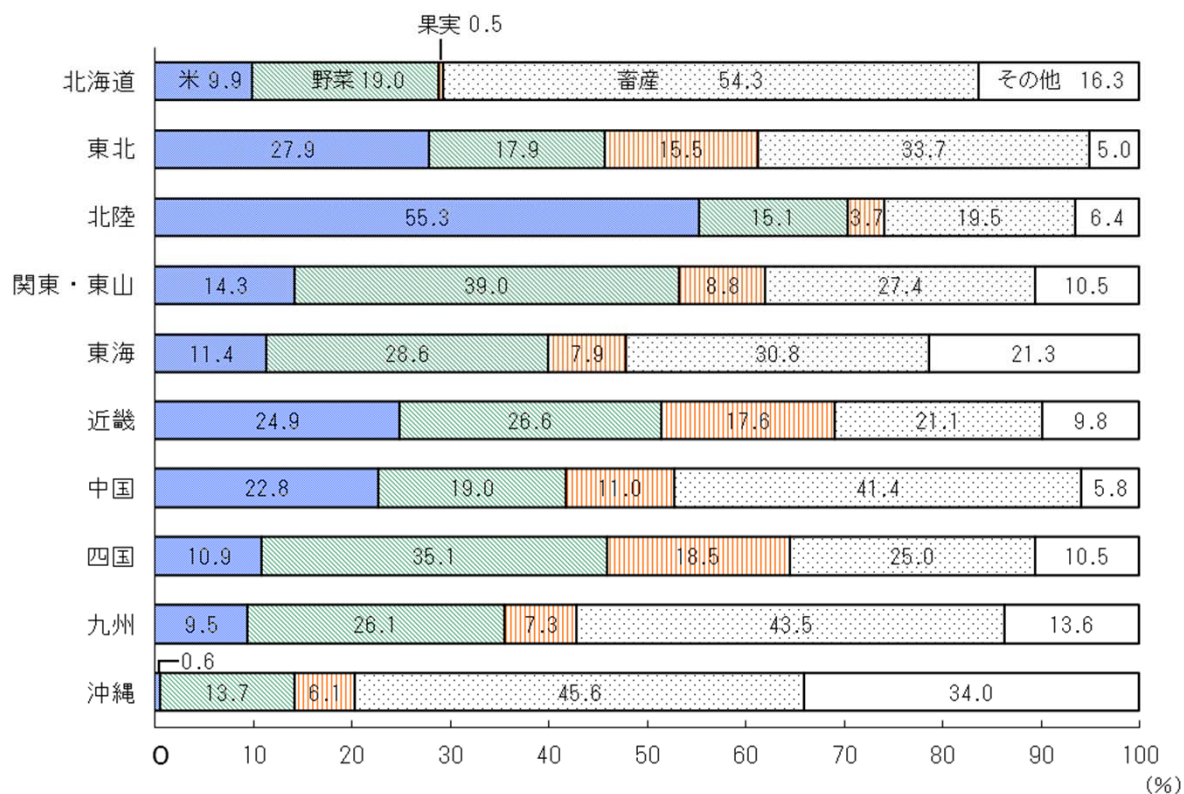
表4 農業産出額上位5都道府県

単位：億円

順位	平成25年		26	
	都道府県	産出額	都道府県	産出額
1	北海道	10,705	北海道	11,110
2	茨城県	4,356	茨城県	4,292
3	千葉県	4,141	鹿児島県	4,263
4	鹿児島県	4,109	千葉県	4,151
5	熊本県	3,250	宮崎県	3,326

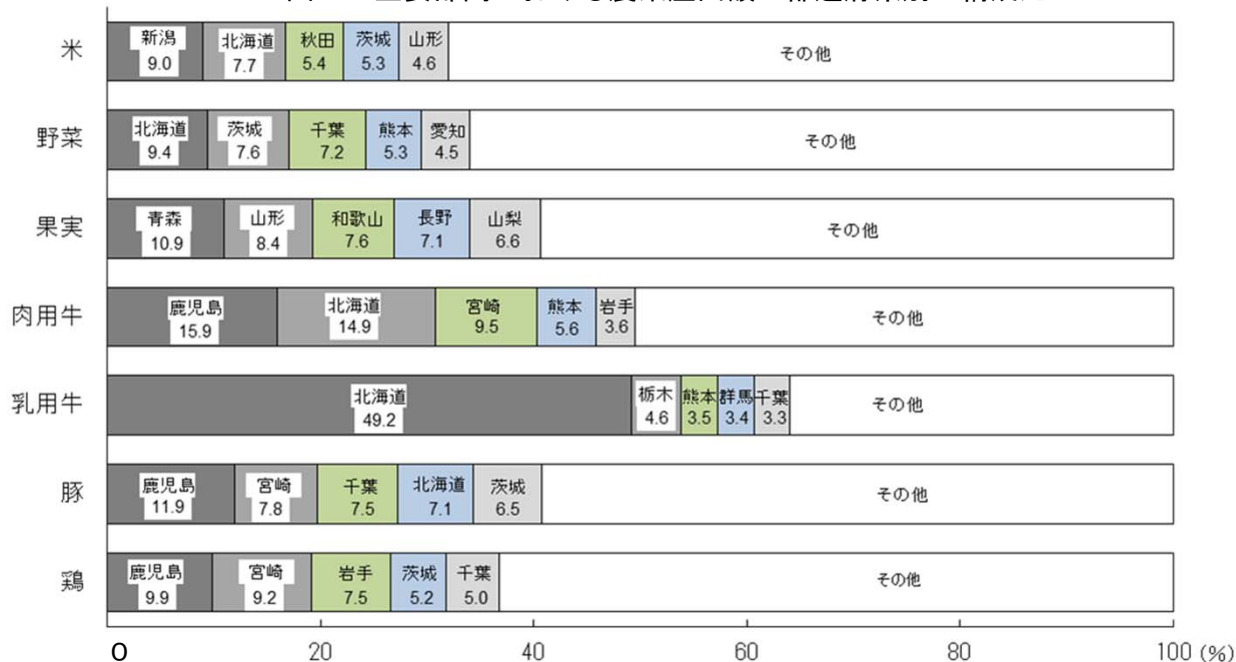
- (2) 全国農業地域別にみると、北陸は米、関東・東山、近畿及び四国は野菜、北海道、東北、東海、中国、九州及び沖縄は畜産が、それぞれ多くなっている。

図2 全国農業地域における農業産出額の主要部門別構成比



- (3) 主要部門について農業産出額が最も多い都道府県をみると、米は新潟県で1,296億円（部門の都道府県の合計に占める割合は9.0%）、野菜は北海道で2,116億円（同9.4%）、果実は青森県で833億円（同10.9%）、肉用牛は鹿児島県で959億円（同15.9%）乳用牛は北海道で3,949億円（同49.2%）、豚は鹿児島県で763億円（同11.9%）、鶏は鹿児島県で880億円（同9.9%）となっている。

図3 主要部門における農業産出額の都道府県別の構成比



注：乳用牛には生乳、鶏には鶏卵、ブロイラーを含む。

- (4) 都道府県別の生産農業所得は、北海道が3,966億円で最も多く、次いで茨城県が1,384億円、千葉県が1,361億円、熊本県が1,186億円、鹿児島県が1,153億円の順となっている。

表5 生産農業所得上位5都道府県

単位：億円

順位	平成25年		26	
	都道府県	生産農業所得	都道府県	生産農業所得
1	北海道	3,763	北海道	3,966
2	茨城県	1,571	茨城県	1,384
3	千葉県	1,398	千葉県	1,361
4	熊本県	1,167	熊本県	1,186
5	鹿児島県	1,088	鹿児島県	1,153